

## 平成 2 1 年 3 月の解説（週間天気予報）

### 【 3 月の天候状況】

上旬は本州南岸沿いを低気圧が短い周期で通過し、東・西日本と南西諸島では曇りや雨の日が多くなりました。中旬は日本海を低気圧が短い周期で通過し、北日本では曇りや雨または雪の日が多くなりました。また後半には高気圧が日本の南を東進したため、北日本や本州の日本海側を中心に顕著な高温となりました。下旬は始め低気圧が日本海を発達しながら通過し全国的に高温となりましたが、その後は強い寒気が南下したため東・西日本を中心に顕著な低温となりました。

月を通しての日照時間は北日本では平年より少なくなりましたが、その他の地方は平年並みとなりました。降水量は北日本から東日本にかけての日本海側で平年より多くなりましたが、その他の地方はほぼ平年並みとなりました。気温は全国的に平年より高くなりました。

### 【 3 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は全国平均では例年（注）より 6 ポイント高い 74%でした。ほとんどの地方で例年より高く、特に中国、四国、九州北部地方と沖縄地方では 10 から 11 ポイント高くなりました。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は例年に比べてほとんどの地方で小さくなり、特に四国、九州北部地方で 0.5 小さく、全国平均では 0.3 小さい 2.4 でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差も例年に比べてほとんどの地方で小さくなり、特に関東甲信、九州南部地方で例年より 0.4 小さく、全国平均では例年より 0.2 小さい 2.1 でした。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【 3 月の週間天気予報から】

3 月 13 日から 14 日にかけては、日本海を発達しながら進む低気圧や前線の影響により、全国的に天気が崩れ、大荒れのところもありました。

この両日を対象とした東京地方の週間天気予報は、9 日までは、前線が通過する 13 日に天気が崩れると予報していました。14 日は次第に冬型の気圧配置へ変わる予想でしたが、13 日の天気の崩れが遅れる可能性もあったためにくもりの予報にしていました。14 日の天気を雨の降る予報としたのは、10 日に発表した予報からでした。

図1に13日21時の地上天気図を示します。東京地方の実況の経過は、13日は雨がほとんど降らず日の射した時間帯もありました。一方、14日は寒冷前線の接近・通過に伴い午前中を中心に雨が降り、朝のうちは南よりの風が強まって荒れた天気となりました。

図2に週間天気予報作成に使用した予想図を示します。この事例では、10日の予想は、8日の予想に比べて日本海低気圧が発達する予想に変わっています。さらに、低気圧の動きが遅くなり、天気の崩れるタイミングも遅くなりました。

週間天気予報では、7日先までの期間における低気圧の動向に関して、その発達程度や通過のタイミングを、数日前から正確に予想することが困難な場合があります。その結果、今回の事例のように、予報が大きく変わる場合もありますので、できるだけ最新の予報をご利用願います。

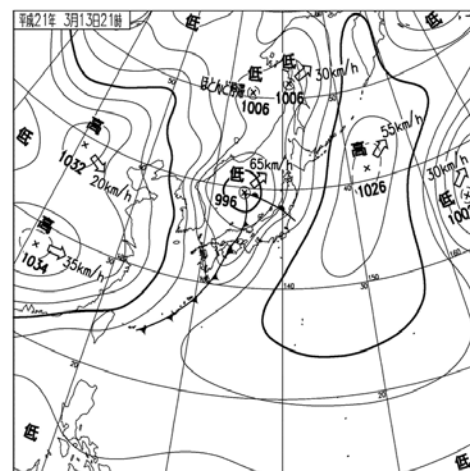


図1 13日21時の地上天気図

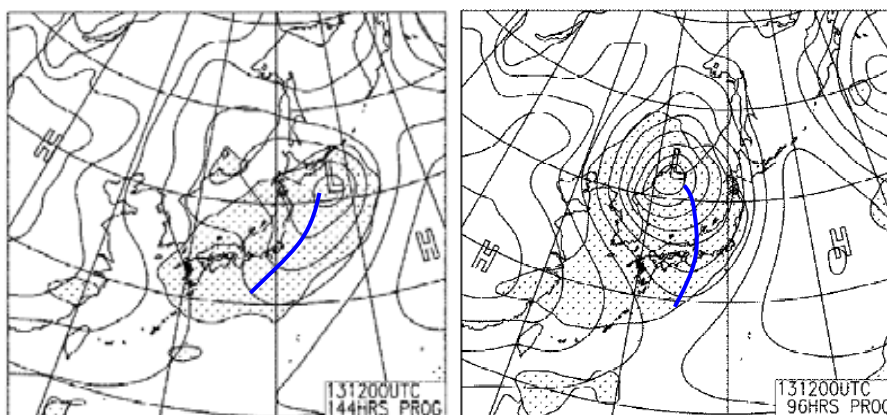


図2 週間天気予報作成に使用した13日21時の予想図

左図は8日発表の予報作成に使用した予想図。右図は10日発表の予報作成に使用した予想図。水玉模様は降水が予想された範囲、青線は寒冷前線に対応した気圧の谷を示す。左図では13日に寒冷前線が本州付近を通過する予想だが、右図では前線が関東地方を通過しておらず、予想が大きく変わった例。

#### 【5月の週間天気予報の利用にあたって】

5月は移動性高気圧に覆われて晴れる日が多くなりますが、日本の南海上に前線が停滞するようになるため、南西諸島では本土より一足早く梅雨に入ります。平年の入梅は沖縄地方では5月8日頃、奄美地方では5月10日頃です。この前線がときどき北上して一時的に停滞すると、西日本や東日本でも数日の間、雨や曇の日が続くことがあり、場合によっては大雨となることもありますので注意が必要です。天候に左右されやすい屋外の活動や行事の準備には、週間天気予報を利用して下さい。